人材開発部門
活動記録

（2017 年 6 月～現在）

平井　滋（済生会本部　事業推進課長）

2017 年 6 月

職種別ワーキンググループでの協議事項

医師、看護師、事務の 3 職種のワーキンググループ（以下、WG）を立ち上げ、7 月に第 1 回を開催し、済生会総研が行う研修を年内に取りまとめる予定です。

（1）医師 WG

①法人全体または各施設における医師人材開発の共通課題の把握

②済生会総研が優先して実施すべき医師人材開発の提案（例：次世代指導者研修の在り方について　平成 29 年度は「済生会全国次世代指導者研修会」を開催）

（2）看護 WG

①済生会人像と本部研修内容との整合性

②済生会人像と「済生会看護理念」「基本方針」「看護教育理念」に記載された内容との整合性

③済生会看護の質向上済生会看護のブランドを確立するために平成 28 年度に改訂した「済生会看護理念」「基本方針」「看護教育理念」の活用状況

④施設等で行われている人材育成の実態

（3）事務 WG

①法人全体または各施設における事務人材開発の共通課題の把握

②人材開発の役割分担（済生会総研、事務部長会、各施設等が実施している研修の役割分担）

③済生会総研が優先して実施すべき事務人材開発の提案

2017 年 7 月

副看護部長研修

61 病院 67 人の副看護部長が参加し、7 月 5 日～7 日に開催されました。

済生会という組織における副看護部長としての役割と看護管理のあり方について学び、実践に結び付けることを目的としており、以下 3 点を目標としています。

1. 変化する社会のﾆｰｽﾞに対応できる看護管理者に必要な知識・技術・態度を習得し実践する
2. 済生会看護の標準化とレベルアップを図るため、ネットワークを活用し、実践につなげる
3. 済生会の果たす使命・役割について再考し実践する

福祉施設リーダー研修

老健、特養、保育園、障害児施設等から、職種を問わず 24 人が参加し、7 月 3 日～4 日に開催されました。受講者を少人数にすることで、より効果的な研修にすることを狙っています。

福祉施設等で働く職員が、本会の創設理念や福祉事業の課題・使命等を学ぶことで、済生会人としての自覚を高め、福祉施設のリーダーとしての資質の向上、及びリーダー相互間の連携を図ることにより、本会業務の発展に資することを目的としています。今回同様の研修は 9 月 4、5 日にも開催予定です。

全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップ

本会医師 32 名が参加し、6 月 24 日～25 日にクロス・ウェーブ梅田（担当：松山病院）で開催されました。修了者には厚生労働省医政局長名の修了証書が授与されます。

本会では平成 18 年 2 月に第 1 回のワークショップを開催し、平成 29 年 6 月現在の修了者数は 1,139 人に上ります。

研修は目標・方略・評価といった「カリキュラムプランニング」の他、コーチングやフィードバック技法など臨床研修指導医として必要な技能・態度を習得することを目的としています。

2017 年 8 月

職種別 人材開発ワーキング

ご案内のとおり、『医師』『看護師』『事務職』の 3 職種のワーキング（以下、WG）を設置し、病院長会から推薦いただいた担当院長にもご参画いただき、人材開発の土台となるような議論がスタートしました。

既に医師 WG が 8 月 2 日に、事務職 WG が 7 月 25 日に開催され、看護職 WG については 8 月 30 日に予定されています。WG では、次世代の幹部（指導者）の育成が重要であり、そのためには「求められる資質」を明らかにすることや、済生会の強みを生かした「人事交流」で幅広い経験を積ませることの重要性等について、活発な議論が交わされました。

アドバンス・マネジメント研修Ⅳ

7 月 25 日(火)～27 日(木)、8 月 1 日(火)～3 日(木)の 2 回に分け、それぞれ 3 日間、看護師を対象としたマネジメント研修が開催されました。

看護部長に推薦されたｸﾘﾆｶﾙﾗﾀﾞｰ・ﾚﾍﾞﾙⅢ以上の中堅看護師・副看護師長を対象とし、「次世代の看護管理者としての役割を担う中堅看護師の役割を明らかにし、輝いて看護ができる」ことが目的です。

2017 年 9 月

認知症支援ナース育成研修

9 月 12~13 日、リーダーとして活躍できる中堅看護師（クリニカルラダー・レベルⅢ程度）81 名を対象に、認知症看護を理解し、認知症看護の推進役となる「認知症支援ナース」を育成するための研修が行われました。

今年度は 2 回の開催を予定しており、次回は 10 月 12~13 日に開催されます。

福祉施設リーダー研修

7 月に続き、第 2 回となる福祉施設リーダー研修が 9 月 4~5 日に開催されました。老健、特養、保育園、障害児施設等から、職種を問わず 23 人が参加しました。

グループディスカッションでは「自分たちが目指す済生会グループの施設のあり方」をテーマに、現状の問題点について活発に意見を出し合い、さらに「主体性の発揮―人間力を高める―」について討議しました。ある言動や価値観を別の視点から捉え直すことができれば前向きになることができ、職場の人間関係をはじめ、全てを良い方向へ向かわせてくれることを学びました。

2017 年 10 月

臨床研修管理担当者研修会

10 月 2 日、臨床研修指導医や事務担当者 62 名が参加した臨床研修管理担当者研修会が済生会本部で開催されました。

この日は、済生会病院間における「初期研修医の交流プログラムの検討」と済生会熊本病院の「包括診療医」の取り組みについて事例発表と参加者同士によるディスカッションが行われました。

初期研修医の交流プログラムとは、2年間の初期臨床研修の中で一定期間、他の済生会病院で研修医が地域医療や救急医療の研修を行うものです。事例発表では自院では経験できない症例を経験できてよかったという研修医からの感想があった一方で、限られた期間の中でより良い研修を経験してもらうためには、送り出す病院と受け入れる病院の双方で研修医に対してフィードバックして研修医を育てることが重要であるという意見もありました。

「包括診療医」の取り組みでは、包括診療医が主治医や病棟専属の薬剤師・栄養士と連携して業務することで、入院患者さんの手術後の体調管理や急変時の対応をより迅速に行うことができるようになり、患者満足度が向上したとの発表がありました。また、包括診療医が中心となり安全管理に取り組むことや、医師・看護師・事務スタッフ等で病院運営上の課題などを話し合うことで、職員の知識や技術の向上に繋がり、職員から高い評価を得ていることも報告されました。

2017 年 11 月

第2回 済生会地域包括ケア連携士養成研修会

11 月 13 日から 16 日の 4 日間にわたり、第 2 回済生会地域包括ケア連携士養成研修会が開催された。病院のMSWや看護師、福祉施設の相談員、介護支援専門員、訪問看護師など、様々な連携業務に携わる 86 名が参加した。本研修は、5 年で 500 名の済生会地域包括ケア連携士（以下、連携士）を養成する予定で、今回で 2 回目の開催となる。

講義内容は、高齢、障害、児童、生活困窮者など各分野における連携や、施設における地域貢献、さらには、ケアマネジメントやICF、職種間連携など多岐にわたった。

90 分の講座が 15 回続くハードな研修となったが、「始まる前は長いと思っていたが、充実した講義でそれを感じなかった」、「どれ一つとっても、貴重な講義ばかりでよかった」、「4 日間では時間が足りない」といった意見が寄せられた。

また、グループワークや交流会を通じた、他の施設との情報交換が刺激となったとの意見も多かった。

今後、課題レポートが提出された後に、済生会地域包括ケア連携士認定書が発行される。本研修により養成された連携士が、各職場でその力量を十分に発揮できるよう、組織全体で取り組んでいくことが期待される。

2017 年 12 月

第8回 全国済生会屋根瓦研修推進のためのワークショップ

12 月 1 日～2 日に全国済生会屋根瓦研修推進のためのワークショップが開催され、初期研修医及び後期研修医 24 名が参加しました。これまで“教わる”立場が多かった初期研修医や後期研修医医師が今後は医学生や研修医を“教える”側の立場になった時に「どのように教えればよいのか」といった疑問や不安を解消するためにこのワークショップは実施されています。この研修では 1 日目に東京ディズニーリゾートが企業・団体向けに実施している「ディズニーアカデミー」を受講します。ここではディズニーが従業員の教育に用いている企業理念の浸透方法やモチベーションを高める人材育成術を学んだ後、実際にディズニーパークに行きそこで働くトレーナーから教育で心掛けていることなどの話を聞きました。

2日目は1日目に学んだことを臨床現場に置き換えた「済生会オリジナルワークショップ」を実施しました。「後輩医師に中心静脈穿刺を教える」という想定で、参加者がグループごと指導者役・研修医役・評価者役に分かれCVC穿刺挿入シミュレータを用いたロールプレイ実習を通して相手に教えるためにはどのような準備と手順が必要かディスカッションを行いました。

この研修のテーマは「Teaching is learning」。屋根瓦方式の教育を推進するためにこのワークショップを通して“教えるコツ”を学びます。そして他者に教えることは“自らの学習につながる”ことを参加者と過去にこの研修に参加したファシリテーターと一緒に考えます。

2018年1月

人材開発部門 職種別ワーキング

済生会総研 人材開発部門の第2回ワーキング(以下WG)が以下の通り開催されました。

WGでは、済生会の病院長や事務管理者に求められる知識や能力についてや、第1回WGで提案された済生会施設間での人事交流制度について等、活発な議論が行われました。

病院長会や事務部長会等と連携しながら、今回議題となった各施策を具体化していき、次回WGであらためて議論する予定です。

【医師WG議題】1月17日(水)開催

1.次世代指導者研修について
2.病院長に共通して求められる知識・能力等について
3.人材開発管理・担当者の育成について
4.済生会施設間の人事交流制度について

【事務WG議題】1月12日(金)開催

1.事務管理者に共通して求められる知識・能力モデルについて
2.済生会施設間の人事交流制度について
3.人材開発管理・担当者の育成について

【看護WG】2月6日(火)開催予定

2018年2月

医療技術者マネジメント研修会

2月22日に医療技術者マネジメント研修会が開催され、リハビリスタッフや診療放射線技師等40名が参加しました。この研修は医療技術者にも本会の理念や使命を意識した病院経営への関わりが求められ、マネジメントを行うリーダーの育成が急務であるということから、平成27年3月以降、本部と事務部長会が協働で実施しており、これまでの受講者総数は476人となりました。

この研修は、本会の理念・使命の浸透と共有を図ること、リーダーに求められる基本行動や業務改善・目標管理等のビジネススキルを学習することなどを目的としています。

参加者はレクチャーやグループワークを通して済生会人としての心得の他、マネジメントの基礎やリーダーシップの実践を学びました。グループワークでは「クイズ」の答えをグループ毎で導き出す過程で、実はリーダーに求められるスキルを見つける演習もあり、楽しく研修に取り組んでいる様子が見られました。

研修の最後には、参加者同士で軽食を取りながらの情報交換会を行い、研修の振り返りや日頃の苦労話の共有し、明日からのお互いの健闘をたたえ合っていました。

アドバンス・マネジメント研修Ⅲ（看護師）

中堅看護師を対象としたアドバンス・マネジメント研修Ⅲが 1 月 16 日～18 日および 1 月 30 日～2 月 1 日に開催され、合計 77 人が参加しました。

研修は 3 部構成で、第 1 部は炭谷茂理事長の「看護に関する済生会原論―済生会人として知っておいてほしいこと―」と題した基調説明。

第 2 部は関東学院大学大学院看護学研究科委員長・金井 Pak 雅子氏が「より輝ける中堅看護師を目指して」と題して講義。組織の変革者として中堅看護師に期待される役割やコミュニケーションスキルについて説明しました。

第 3 部は高輪心理臨床研究所主宰・岸良範氏による講義「人間関係とリーダーシップ―互いに育てあう職場を目指して―」に加えてグループワークを実施しました。2日間にわたる講義でしたが、受講生の 90%以上が「今後に大いに生かせる」と答えるなど好評を博しました。

2018 年 3 月

次世代事務部門経営責任者養成研修（略称：次世代幹部研修）

支部・病院・福祉施設の事務職員 30 名が参加し、3 月 13 日に本部会議室で開催されました。

この研修は、将来、事務部長や福祉施設長等になることが期待される事務職員を対象とし、済生会理念の理解や内部統制・マネジメント能力を身に着けてもらうため、病院長会や事務(部)長会の協力のもと、平成 28 年度から実施しています。

研修では、済生会の事務幹部職員に必要な知識や心構え等について炭谷 茂理事長、監査指導室(済生会本部)、園田 孝志院長(唐津病院)、岩本 一壽支部長(岡山県済生会支部)による講義の後、グループワークを実施しました。

グループワークでは、KJ 法と呼ばれるブレインストーミング手法を用いて「済生会の事務職リーダーに求められるもの」をテーマに様々な意見を出し合いました。続いて、「事務職リーダーを育てるために必要なこと」について、各施設の取り組みや問題意識を共有した後、参加者は事務部長の視点に立ち課題の解決策やヒントを探り、グループ間および参加者全体でディスカッションを行いました。

参加者からは「済生会職員であるプライド、自覚、誇りを持って仕事をしようと思う」といった感想が聞かれました。なお、当研修の修了者に対して、施設がスキルアップに必要な外部研修を受講させた場合、施設が負担した受講費用の一部に対して補助が行われます。

MSW 研修会・生活困窮者支援事業研修会

平成 29 年度 MSW・生活困窮者支援事業研修会が 3 月 14 日と翌 15 日に開催され、MSW を中心に 71 人が参加しました。

はじめに炭谷理事長による「済生会における MSW 事業の理論と方法」と題した講演では、「済生会の MSW が日本の MSW をリードしてほしい」との強い期待が寄せられ、続く、川口総合病院の八木橋克美氏、みすみ病院の内田耕人氏、京都府病院の南本宜子氏の各 MSW からは、施設における生活困窮者支援の活動状況が報告されました。

2 日目は、文京学院大学・中島修准教授による「地域におけるネットワークの構築について」と題した講演が行われ、国の政策の理解と地域におけるネットワーク構築の必要性について考えました。

講演後には、1 日目の活動状況報告と合わせ南本氏をコーディネーターとしてグループワークが行われ、「生活困窮者支援のネットワークづくり」をテーマに話し合いが行われました。参加者からは

「活動報告が具体的で参考になった」「病院全体で地域に関わることが重要だと感じた」等の感想が寄せられました。

また、1 日目の研修終了後の情報交換会では MSW 同士の交流も図られ、昨年に引き続き、障害者の就労継続支援事業を行う熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」のパウンドケーキや、松山ワークステーション「なでしこ」のクッキーなどがふるまわれました。

2018 年 4 月

看護部長・副学校長研修

4 月 19～20 日、看護部長・副学校長 88 人が出席し本部で開催しました。

1 日目は厚生労働省医政局看護課の島田陽子課長から「看護の動向」について講演いただき、看護師の特定行為研修の全国指定研修機関の説明等を受けました。

続いて、平成 29 年度副看護部長フォローアップ研修における受賞者の成果発表を行いました。

「済生会虹の架け橋賞」（下関総合病院副看護部長・亀永百合子氏）、「チームでやり遂げたで賞」（山形済生病院副看護部長・阿部克子氏、新潟第二病院副看護部長・佐藤志津子氏）、「済生会ブランド企画賞」（野江病院副看護部長・柏井満希子氏、兵庫県病院副看護部長・堀川葉弥子氏）、「済生会虹の架け橋賞」（下関総合病院看護部長・藤田恵氏）からそれぞれ発表いただきました。

午後からは、高輪心理臨床研究所主宰の岸良範氏の講義「人間関係とリーダーシップ―豊かにはたらくために―」とグループワークが、2 日目には中京大学法科大学院の稲葉一人教授から「臨床倫理の基礎 事例検討会 意思決定支援 院内で実現するために」の講演があり、大変有意義な研修となりました。

2018 年 5 月

訪問看護ステーション管理者研修会

平成 30 年度訪問看護ステーション管理者研修が5月 17、18 日、本部で開かれた。今年度新設された 1 事業所を含め、51 人（うち 7 人が新任）が参加した。1 日目は炭谷茂理事長が「介護

に関する済生会原論」を、続いて日本訪問看護財団常務理事・佐藤美穂子氏が「平成 30 年度報酬改定と訪問看護の動向」と題して講義した。

2 日目は午前中に（株）ケアーズ白十字訪問看護ステーション統括所長・暮らしの保健室　室長・マギーズ東京　センター長　秋山正子氏が「在宅現場と訪問看護の課題　つながる・ささえる・つくりだす　在宅現場の地域包括ケア」と題して講義した。予防から看取りまでを担う訪問看護は、在宅医療・看護・介護の協働が必要不可欠で、地域での活動の実践をもとに情報発信をして、活動を広げていくことも必要である。また、訪問看護師は自身の看護ケアの評価を行い、家族とのコミュニケーションを円滑にし、看護の質を高め、利用者の満足度の高いケアを提供していくことが必要であると説明した。

訪問看護事業の他に、「つながる」地域包括ケアとして、予防の視点を持つ地域の中の相談支援と居場所づくりの取り組みで「暮らしの保健室」、がん患者と家族のための新しい相談支援の場「マギーズ東京」の活動内容の説明があった。

午後は、済生会訪問看護ステーション管理者間の交流を通して、連携・親睦を深める目的で、「交流ワーク」を行った。

はじめに、全体交流会で各施設の状況を紹介。次に 8 グループに分かれて事前に調査した意見についてグループワークを行った。

最後にブロック別に分かれて交流会を行った。活発な意見交換と情報共有の場となった。

2018 年 6 月

看護管理者研修会」検討ワーキンググループ

6 月 19 日（火）に平成 30 年度第 2 回「看護管理者研修会」検討ワーキンググループが本部で開催されました。目的は、済生会看護理念に基づいた済生会看護管理者研修の在り方の検討です。今年度は主に、本部で開催する副看護部長研修（7 月 18 日～20 日）と副看護部長研修フォローアップ研修（11 月 27 日～29 日）について、内容、実施指導、評価の検討を行います。

副看護部長研修は、済生会という組織における副看護部長としての役割と看護管理のあり方について学び実践することを目的とした研修です。今回のワーキングでは、研修プログラムの内容とフォローアップ研修に向けて、グループ編成とグループワークの内容について検討しました。主な研修内容は、看護部長のマネジメント、臨床倫理、医療安全に関する講義と、平成 29 年度に実施した副看護部長フォローアップ研修の成果発表を予定しています。

福祉施設リーダー研修のお知らせ

福祉施設リーダー研修が、7 月から 3 回に分けて開催されます。福祉施設の監督者を対象とした研修で、リーダーとしての資質の向上、リーダー相互間の連携を図ることで、済生会業務の発展に資することを目的としています。

二日間にわたり実施され、1 日目（13:30～17:15）は炭谷理事長による挨拶・基本説明と外部講師による基調講義を中心に、2 日目（9:30～15:00）はグループワークを中心に構成されています。

7 月 30 日（月）・31 日（火）【本部】、9 月 4 日（火）・5 日（水）【本部】、10 月 16 日（火）・17 日（水）【岡山済生会ライフケアセンター】の 3 回で、いずれも定員は 24 人です。

昨年度までは、東京の本部会議室で年 2 回開催されていましたが、本年度は、新たに岡山会場が加わり年 3 回の開催となりました。

受講を希望される方は、受講申込書を7月 10 日（火）までに本部に提出してください。詳細は、平成 30 年 4 月 26 日付け済事発第 63 号をご参照ください。

2018 年 7 月

第 40 回全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップ

第 40 回全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップ（通称：SWS）が、6 月 23～24 日に大阪市（クロス・ウェーブ梅田）で開催され、18 病院 32 名の指導医に厚生労働省認定の修了証が授与されました。この研修は厚生労働省が定める指導医講習会の認定を受けており、届け出済みの 16 時間に渡るプログラムを確実に実施する必要があります。第 1 回（平成 18 年）からの修了者は 1,236 名に達しました。

持ち回りによる開催担当病院は山口総合病院で、城甲啓治院長とチーフタスクフォースの船﨑俊一川口総合病院循環器内科部長を中心に、6 名のタスクフォースの先生方、山口総合病院のスタッフをはじめ、次回担当の前橋病院、次々回担当の二日市病院からも協力を得て、総勢 30 名のスタッフによって恙なく終了することができました。

主なテーマは研修医が行う研修プログラムの立案で、目標の設定、研修方法（方略）、コーチング、リーダーシップ、評価といった指導に必要な要素について、KJ 法を活用したグループワーク、ロールプレイやバズセッションといった手法を用いて効果的に進められました。中央病院の高木誠院長、京都大学の小西靖彦教授による講演も盛り込まれました。

受講者の振り返りの中で、研修医を導くことの難しさを実感した、目標設定とフィードバックがモチベーションを保つのに有益である、方略、コーチングの仕方が最もためになった、これまで自分がしてきた指導法を反省し改善出来ると思った、といった声が多く寄せられ、臨床研修医指導のレベルアップに大きく寄与したワークショップとなりました。

平成 30 年度第1回アドバンス・マネジメント研修Ⅳ

次世代の看護管理者を目指す中堅看護師を対象にした平成 30 年度第1回アドバンス・マネジメント研修Ⅳを 7 月 9～11 日、64 施設から 71 人の参加を得て本部で開催しました。

1 日目は炭谷茂理事長の「看護に関する済生会原論－済生会人として知っておいてほしいこと」、加藤看護師社労士事務所・加藤明子氏の「労働法に基づく労務管理」の講義を行いました。

2 日目午前中は関東学院大学大学院看護学研究科委員長・教授・金井 Pak 雅子氏に「より輝ける看護師を目指して」と題して、次期管理者として期待される中堅看護師の役割やマネジメントについて具体的な事例を交えて語っていただきました。午後はグループワーク形式で、高輪心理臨床研究所主宰・岸良範氏による「人間関係とリーダーシップ－互いに育てあう職場を目指して－」と題した、主にパワーハラスメントについての講義を行ないました。

3 日目は引き続き、岸　良範氏の講義と演習で、「イメージを聴く」をテーマに音楽を聴き、「同じ曲を聴いても、同じ文章を読んでも、人によって感じ方が違うこと、違っていてもいいこと」などを学びましだ。午後は 11 グループに分かれて話し合い、情報交換も行ないました。最後に講師から、「話し合うこと、わかり合うことは、今までに自分の中になかったもの、互いの関係の中になかったものを生み出す、創造的な体験である」との話があり、大変有意義な研修となった。

当研修会の第 2 回目は、8 月 22 日～24 日に同プログラムで開催する予定です。

副看護部長研修会

平成 30 年度副看護部長研修を 7 月 18 日～20 日、61 病院 68 人の参加を得て本部で開催しました。1 日目は、炭谷茂理事長の「看護に関する済生会原論～済生会人として知っておいて欲しいこと～」の講演、続いて〈大阪〉済生会中津病院看護部長・今西裕子氏が「看護部長のマネジメント」と題して講義しました。講義の内容は中津病院の概要と看護部の紹介と「看護師確保と定着」について 3 年間取り組んだことと、経営視点を持って関わった「看護部の病床管理」について。

2 日目の午前中は、中京大学法科大学院教授・稲葉一人氏の「看護管理と臨床倫理　事例検討会　意思決定支援　院内で実現するために」の講義がありました。実際の症例をもとに、医療倫理の 4 原則と 4 分割法（症例検討シート）の活用を解説しました。この 4 分割法を活用すると、職種や職場によって倫理の問題の見え方の違いを理解することができます。看護管理

者は臨床倫理の視点を生かし、患者家族対応をしていくことが必要です。続いて「臨床倫理の基礎」の説明がありました。倫理学の概要と分類を、例を挙げて分かりやすく解説。言葉を使って考え、臨床倫理を院内で議論することは、医療者の不安を支え、「法的リスク」を軽減させる。対話の場を作ることで、院内での情報の共有を促す。さらに、ルールを作るプロセスで関係者を巻き込む。事例を通じて「臨床の慣例」に気づき、その意味を再度考えるきっかけになる。そして、なにが患者にとって最善の利益であるかを考えることで、医療の重要な一部であり、患者家族の満足や納得につながるとき「医療者の満足（やりがい）」つながる、という講義が行われました。午後には本会理事・岩手医科大学看護学部長教授・嶋森好子氏の「医療安全～医療現場で患者の安全は確保されているか～」の講義がありました。過去にあった医療事故は看護師が気づいた事例が多い。看護管理者として、事故報告の集計データにアンテナを張り、知っておくことが必要である。事故が起きた薬剤名・単位は最新情報を収集し、病院職員に周知し、教育していくことが大切である。こうした教育は、医療事故の予防へと繋がる。さらに、看護管理者が、医療スタッフが働きやすい環境を整え、働きがいを高めるよう「雇用の質」を向上させていく取り組みを進めていけば、「医療の質」の向上へとつながるという講義がありました。

3 日目は、前年度の「副看護部長フォローアップ研修成果発表」を済生会下関総合病院副看護部長・亀永百合子氏、看護部長・藤田恵氏よりありました。この取り組み事例の講義から学び、再度各グループでテーマを絞り込み、11 月に開催の副看護部長研修 2 回目(フォローアップ研修)に向けてグループワークが行われました。

2018 年 8 月

コンプライアンス研修

第 8 回コンプライアンス研修を 7 月 27 日、本部で開催しました。支部内部管理体制の基本方針にも関係することから支部職員も対象としており、施設長等が務める副法令遵守責任者と合わせ計 67 人が参加されました。

本会法令遵守責任者である松原了理事が「一人ひとりが今日から意識を変えるつもりで受講していただきたい」と開講の挨拶をされました。炭谷茂理事長は基調説明で「『済生会ブランド』形成に当たっては、いわば最低必要条件」とコンプライアンスの徹底を呼び掛けられました。

その後、OBS ビジコン代表（元日本総合研究所主席研究員）の大林正幸講師から、上級管理者の役割や管理体制の整備についての講義がありました。個別事例研究では「内部統制が機能しない組織が招いた不祥事」を例に参加者同士で意見交換をすることで、コンプライアンスへの理解をより深めることができました。

福祉施設リーダー研修

福祉施設リーダー研修を7月 30～31 日に本部で開催しました。6年目となる今回の研修は、豪雨災害で広島の2施設が不参加になる等、定員 24 人に対し 19 人と少数での研修となりました。

始めに炭谷理事長の講演「済生会の福祉事業～社会の期待に応える～」があり、「障害者の社会参加や刑余者の社会復帰等に加え、独居高齢者・児童虐待の増加など新しい問題が出現している。こうした問題に対処すべき済生会の役割は大きく、「攻めの姿勢」で福祉事業を進め確固たる地位を固めたい」との方針を示されました。

その後は外部の専門講師による研修となり、「自分たちが目指す済生会グループの施設のあり方」と「現状における問題点」について、グループ毎に活発な意見を出し合いました。続いて、主体性を発揮するため「出来事の捉え方」の演習を行ないました。自らの「思い込み」を知って納得する他の捉え方ができれば、様々な出来事が自己成長につながる。それを実感することで自律的・自発的な行動が生まれて人間力が高まり、職場での人間関係をはじめ人生までもが豊かに楽しく充実したものになることを学びました。最後に、ゲームを用いてリーダーの指示の出し方を実践しました。

当研修は年2回の開催でしたが、今年度は 3 回開催することとしており、9 月 4～5 日（東京）、10 月 16～17 日（岡山）にも開催する予定です。

2018 年 9 月

アドバンス・マネジメント研修

本年度 2 回目の開催となる次世代の看護管理者を目指す中堅看護師を対象にしたアドバンス・マネジメント研修Ⅳの第 2 回を 8 月 22～24 日に本部で開催し、56 施設から 65 人が参加されました。7 月の第 1 回と合わせて 136 人が修了となりました。

平成 26 年度から開始したこの研修は今年で 5 年目を迎えました。次世代の看護管理者を対象とした本部研修はⅠ～Ⅳに分かれており、このアドバンス・マネジメント研修Ⅳが最終段階にあたり、これまでの受講者は約 1500 人に上ります。

受講後のアンケートでは「今回の研修で自分の役割は何かを再確認し反省点も見つかった」「日々の業務や今後のマネジメント、キャリア形成においてとても学びになった」という感想をいただきました。

福祉施設リーダー研修

7 月に続く今年度 2 回目の福祉施設リーダー研修を 9 月 4～5 日に本部で開催し、23 人が参加されました。プログラムは 1 回目と同様で、はじめに炭谷理事長が「済生会の福祉事業～社会の期待に応える～」と題し、障害者支援や刑余者の社会復帰など、済生会が果たす役割は大きいと語られました。

その後、外部講師が担当したグループワークでは、「自分たちが目指す済生会グループの施設のあり方」と「現状における問題点」を参加者同士で議論しました。リーダーとしての心構えやコミュニケーションスキルを学ぶ演習も行なわれました。

本研修は年 2 回が通例ですが、今年は 3 回の計画で、3 回目は 10 月 16～17 日に岡山市で開催予定です。

認知症支援ナース育成研修

済生会独自の「認知症支援ナース育成研修」第 1 回を平成 30 年 9 月 6～7 日に開催しました。初日早朝に「北海道胆振東部地震」が発生したため、予定していたプログラム構成及び講師を急遽変更した上での開催となりました。

当研修は、平成 28 年度の診療報酬改定で新設された「認知症ケア加算 2」の施設基準である「適切な研修」の指定を受けており、認知症ケア加算 2 の算定条件を満たす 9 時間以上の研修参加を無事クリアすることができ、72 人の受講者全員に修了証書を交付できました。

プログラムは 2 日間の日程で、1 日目は済生会兵庫県病院認知症看護認定看護師・谷川典子氏（「認知症ケア加算」「急性期病院での認知症看護の視点」）、谷川氏と済生会吹田病院認知症看護認定看護師・市村恵氏（「入院中の認知症患者に対する看護に必要なアセスメントと援助技術」）、済生会横浜市東部病院の老人看護専門看護師・丸山理恵氏（「認知症に特有な倫理課題と意思決定支援」）から講義いただきました。

2 日目は、済生会富山病院認知症看護認定看護師・橋本佳子氏と済生会金沢病院認知症看護認定看護師・松田美紀氏（「認知症患者とのコミュニケーション方法」、「療養環境の調整方法」）、済生会横浜市東部病院神経内科部長・後藤淳医師（「せん妄について」「認知症の原因疾患と病態・治療」「認知症の行動・心理症状について」）の講義に続き、グループワークを行い、認知症患者の看護・コミュニケーション方法について再認識することができました。

今年度は 2 回開催で、第 2 回は 10 月 9～10 日に 72 名が参加予定です。今年度の修了予定者は 144 名で、平成 28 年度から今年度まで修了した延べ人数は 697 名となる予定です。

看護師長研修

平成 30 年度看護師長研修を 9 月 10～12 日に本部で開催し、79 名が参加しました。

1 日目は、炭谷理事長の基調講演に続き、済生会川口総合病院看護部長・名古屋恵子氏から「看護部長のマネジメント―キラッと輝く看護師長―」と題し、川口総合病院で導入している看護体制の事例をもとに講義いただきました。また、昨年から情報交換の時間を設けており、日頃の悩みを共有し、自施設を振り返ることができる時間となりました。

2 日目は中京大学法科大学院教授・稲葉一人氏の講義「看護倫理と臨床倫理」に続き、高輪心理臨床研究所主宰・岸良範氏による「人間関係とリーダーシップ―互いに育てあう職場を目指して―」と題する講義と演習（グループワーク）を行いました。

3 日目は、社会保険労務士法人あい事務所代表社員（所長）・福島紀夫氏（「医療従事者の管理職がおさえるべきこれからの『働き方』と『ハラスメント対策』」）、済生会川口看護専門学校副学校長・櫻井靖子氏と静岡済生会看護専門学校副学校長・吉澤加代子氏（「看護師養成所の現状と課題―就職後の支援―」）の講義いただき、有意義な研修とすることができました。

2018 年 10 月

看護補助者の活用と支援についての看護管理者研修

平成 30 年度看護補助者の活用と支援についての看護管理者研修を 9 月 25 日に 65 人の参加を得て本部で開催しました。本研修は、急性期看護補助体制加算及び看護補助者加算に対応しています。

講師は東神奈川リハビリテーション病院看護部長・藤原佐和子氏で、超高齢化、人口減少の時代の看護職や介護職には、勤務形態の多様性が求められると解説されました。看護補助者の歴史と役割などを踏まえ、看護管理者はどのような看護を提供したいのか、看護補助者に自身のビジョンを明確に伝え、看護補助者もチームの一員であると自覚してもらうように教育していくことが重要と話されました。

また、「魅力ある職場を目指して－明日からすぐに取り組めることー」をテーマにグループワークを行いました。受講者からは「積極的に声を掛けてコミュニケーションを図る」「モチベーションをあげるために看護補助者を名前で呼び、その都度、感謝の気持ちを伝えていく」「自分たちから積極的に情報共有していく」などの意見がありました。

藤原氏は「仕事に対するモチベーションはどの職種も違いはなく、自分が必要とされ、チームの一員であるという自覚を持てれば向上する。そのためには看護管理者は相手を承認

し、求めることを明確に伝え、そして働きやすい環境を整えることが重要な役割」と総括されました。

認知症支援ナース育成研修

平成 30 年度認知症支援ナース育成研修を本部で開催し、第 1 回（9 月 6 日～7 日）と第 2 回（10 月 9 日～10 日）合わせて 143 人が参加されました。「認知症ケア加算 2」の算定条件に満たす 9 時間以上のプログラムを受けた参加者全員に修了証書が交付されました。

第 1 回の研修では初日の 9 月 6 日早朝、「北海道胆振東部地震」が発生。地震の影響で講師の小樽病院神経内科診療部長・松谷学氏が上京できなくなったため、2 日目に予定していた認知症看護認定看護師の谷川典子氏（兵庫県病院）と市村恵氏（吹田病院）による「入院中の認知症患者に対する看護に必要なアセスメントと援助技術」を繰り上げて実施しました。

松谷氏の講義は急きょ〈神奈川〉横浜市東部病院神経内科部長・後藤淳氏が受け持つことになり、翌 7 日に診療の合間を縫って本部に駆けつけて行なうなど、済生会の総合力の高さが示されました。

第 2 回研修では予定通り松谷氏に「せん妄」「認知症の原因疾患と病態・治療」「認知症の行動・心理症状」について講義いただき、「医療者や介護者は認知症患者の感情にもっと介入し、感情に寄り添っていく必要がある」と解説されました。

また、横浜市東部病院の老人看護専門看護師・丸山理恵氏から「認知症に特有な倫理課題と意思決定支援」を、認知症看護認定看護師・橋本佳子氏（富山病院）と松田美紀氏（金沢病院）から「認知症患者とのコミュニケーション方法」「療養環境の調整方法」を講義いただきました。

平成 28 年度に新設された本研修の修了者は延べ 696 人となりました。

2018 年 11 月

福祉施設リーダー研修

福祉施設リーダー研修を 10 月 16～17 日に岡山市で開催し、定員の 24 人が参加されました。これまでの年 2 回の本部開催に加え、今年度は 3 回目を岡山済生会ライフケアセンターで開催しました。

プログラムは前2回と同じですが、「済生会の福祉事業～社会の期待に応える～」と題した炭谷茂理事長の講演には、研修参加者の他に岡山県済生会の福祉施設職員 30 人が耳を傾けていました。特養みなみがた荘の協力のもと初めての地方開催となりましたが、参加者からは「職場や家庭を長期に空けずに参加できてよかった」という声が聞かれました。

新人看護職員教育担当者研修

新人看護職員教育担当者研修を10月17～19日に本部で開催し、63人が参加された。各施設で新人看護職員研修を効果的に行うため計画の立案、実施、評価などを検討することを目的としている。

1 日目は、炭谷理事長の基調説明「看護に関する済生会原論」の後、東京工科大学名誉教授・齊藤茂子氏から「新人看護職員の成長支援」と題して講義いただいた。新人看護師の離職理由で最も多いのは、教育現場で習ったことを臨床で上手く生かせないことであり、厚労省が作成した「新人看護職員研修ガイドライン」の効果的な活用方法について解説いただいた。

2 日目は杏林大学保健学部看護学科准教授・金子多喜子氏から「コミュニケーションの特性」と題して最近の若手看護師のメンタルヘルスについて講義いただいた。1 日目に講義した齊藤氏には 2 日目も「『こうすれば新人の成長を支援出来る』提案集を PBL で作ってみよう！」と題し、PBL の活用方法を講義いただいた。3 日目は、前日のチームワークで生み出した「知の成果」をパワーポイントで発表し、ロールプレイで解決策を実施した。

齊藤氏は「新人看護職員担当者が感じる疲れとは、誠実に対応している表れである。頑張っている自分を認めてあげてほしい」と訴えたうえで、「新人教育は個人の力ではできない。全職員で教育担当者を支え、新人と共に成長する組織作りと仲間作りをしてほしい」と話された。

新任看護師長研修

新任看護師長研修を 10 月 30～11 月 1 日に本部で開催し、病院や特養などから 77 人が参加された。1 日目は炭谷茂理事長の基調説明「看護に関する済生会原論」の後、野江病院看護部長の米須久美氏より「看護部長のマネジメント～『師長力』を上げて管理を楽しもう～」と題して講義いただき、師長は患者や家族、職員との対話を通して問題をいち早くキャッチすることが大切と話された。

2 日目は日本看護協会常任理事の川本利恵子氏から「人材育成の基本―チームで看護ケアを継続するために、人財を自ら作る―」と題し、師長は自らの判断で行動し責任を負うことができる人材を育成してほしいと講義いただいた。加藤看護師社労士事務所の加藤明子氏は「労務管理」を講義いただき、育児や介護関連の法律について、仕事との支援制度、多様な勤務形態の事例を説明いただいた。

3 日目は東京外国語大学非常勤講師の市瀬博基氏が「ポジティブ・マネジメント―自ら考え、行動し、助け合う組織をつくる―」と題して講義され、職場の学びと成長は、協働と対話から生まれる。

対話をつくり、協働の中から仕事の「意味」を見出すことをサポートしていくことが必要であると主張された。

第3回 済生会地域包括ケア連携士養成研修会

第 3 回済生会地域包括ケア連携士養成研修会を 11 月 12～15 日に本部で開催し、病院の MSW や看護師、福祉施設の相談員、訪問看護師など、様々な連携業務に携わる 78 人が参加されました。済生会地域包括ケア連携士には、「済生会地域包括ケア」を中核となって進めていく役割が期待されており、研修内容は、高齢、障害、児童、生活困窮者など各分野における連携や、施設における地域貢献、ケアマネジメント、職種間連携など多岐にわたりました。

参加者からは、「全体を通して終始、済生会が目指す地域包括ケアを考えることができた」、「多彩な講師陣の話を一度に聞くことができて良かった」、「視野を広げて、もっと地域に関わっていきたい」、「済生会の実践事例と外部講師の濃厚な講義のバランスが良かった」といった意見が寄せられました。

2018 年 12 月

副看護部長フォローアップ研修

副看護部長フォローアップ研修が 11 月 27～29 日に本部で行なわれ、67 人が参加した。7 月の研修で学んだ役割と看護管理を実践に結び付けることが目的。

参加者は 10 グループに分かれ、「実践に強い副看護部長は何ができるか」をテーマに討議。看護部長会「看護管理研修会検討ワーキンググループ」の 6 人の看護部長らのサポートを受け、「次世代（看護師長）育成」「コンピテンシー・モデルの活用」「倫理的問題への支援」「看護部を活性化できる」「地域包括ケアシステム構築に向けた入退院支援システムに強化」などを検討した。

最終日は全体発表をし、優秀な企画を全員の投票とアドバイザーの総合評価で決め、「済生会虹の架け橋賞」として上位 2 グループを表彰した。アドバイザーからは「各々が考えてきたプロセスを通して、多くの気付きが生まれたことが素晴らしい。自施設に戻ったらすぐに活用してほしい」「実践できないのではなく、どうしたら実践できるかを考える機会となった研修だった。これからは成果を出せる仕事をしてほしい」などの講評があった。

受講後のアンケートでは 9 割が今後に生かせる内容と回答。自身の課題が明確になったとも回答した。

薬剤部（科・局）長研修会

平成 30 年度薬剤部（科・局）長研修会を 12 月 14 日本部で開催しました。70 病院 72 名の薬剤師の参加をいただきました。炭谷茂理事長から「済生会の経営の現状と今後の方向」と題して済生会病院の経営状況と経営対策を含む今後の方向性等についての基調講演、松原了理事から本部連絡事項として、昨年度の経営状況や本会が取り組むSDGs、共同治験、済生会総研の活動状況について説明があった。

その後、浜松医科大学医学部附属病院　教授・薬剤部長　川上　純一　先生による「これからの医療政策の動向と病院薬剤師を巡る状況」では、薬剤師を取り巻く医療環境の変化や、今後求められる安全管理等について解説いただいた。

続いて千葉大学医学部附属病院薬剤部　教授・部長　石井伊都子先生の講演「薬剤師育成の現状と課題」では、千葉大学における薬剤師育成の取り組みについて講演いただいた。

2019 年　1 月

アドバンス・マネジメント研修Ⅲ　第 1 回

1月　21　日（月）～23　日（水）中堅看護師を対象としたアドバンス・マネジメント研修Ⅲが本部で開催され、68 施設 80 名の参加がありました（老健・特養ホーム含む）。

この研修は済生会中堅看護師（クリニカルラダー・レベルⅢ以上の該当者）が対象としています。看護の現場でリーダーシップが取れ、中堅看護師としての役割を明らかにし、輝いて看護ができることを目的とした研修です。

1 日目は炭谷茂理事長の「看護に関する済生会原論―済生会人として知っておいてほしいこと―」と題した基調説明があり、最近の日本と世界の社会情勢と医療福祉をめぐる情勢を解説されました。続いて、済生会の歴史とこれからの「済生会人」としての役割を解説いただきました。

続いて、関東学院大学大学院看護学研究科委員長・教授　金井　Pak　雅子氏による「より輝ける看護師を目指して」と題して講義が行われました。組織の変革者として中堅看護師に期待される役割やコミュニケーションスキルについての説明があり、様々な事例をもとに、効果的なコミュニケーション方法を解説されました。看護ケアにおける最も効果的な問題解決の方法の一つは、コミュニケーションであり、自分の目的と立場を把握し、相手と話し合いをする。お互い正しい理解に基づき、共感できるように伝えることが大切と話されました。最後に金井 Pak 氏より、「これから管理者になっていく皆さんに、この講義を通して看護師として自分自身のキャリア、今後何を目指したいのか、ぜひ考える機会にしてほしい。」との熱いメッセージをいただきました。

2 日目からは 2 日間に亘って、グループワーク形式になり、高輪心理臨床研究所主宰・岸良範氏の「人間関係とリーダーシップ―互いに育てあう職場を目指して―」と題して講義とグループワークを行いました。人間関係を豊かにするためには、相手に敬意を払いながら、話を「聴く」こと、自分の人間関係にいつもどのような問題が生ずるのか、自身の傾向を知ること。そして、相手に完璧を求めるのではなく、出来たことを認めること。出来ないことがあっても、認めること。相手に「心を傾けて聴くこと」で信頼関係が生まれ、「認められている」という感情が湧き、意欲につながっていく。

「お互い認める一認められること」の大切さを力説されました。しかし、「誰にでもそれができない時がある。それはどういう時なのか」実例を通して解説し、グループで話し合いました。対応策として、まず手を止め、相手の顔を見ながら対応することで共感的に受け止めることができる。相手の話を「聴く」時は、時間と場所のマネジメントも必要である。

午後からは、創造的対話を考えていくための講義と、13グループに分かれて「豊かに働くために　後輩たちとの関係・上司との関係～その時のコミュニケーションについて考えてみよう～」をテーマにグループワークを行いました。多くのグループから出た意見は、「後輩には自ら声かけをし、どこまで出来ているのかを具体的に説明していく。」「自分自身の言動をフィードバックしていく。」「後輩に対してだけでなく、上司にも聴く・話す姿勢を振り返る。」でした。

グループワークの総括として、「相手に敬意をもって話を聴くこと。違った個性の人と反対意見でぶつかりあっても、相手の意見を認め、尊重しあえる関係を作っていくことが大切。反対意見は決してマイナスにはならない。どんな反対意見でも組織の新たな価値観となり、多くの「知恵」となり、良好な人間関係がある組織へと繋がる。」という講義でした。

最後に「話を聴くときのポイントは、心を傾けて真剣に聴くこと。そして、話し手の今の気持ちや考えを『教えてもらう』という姿勢で聴くことである。」そして、「話し合うこと、わかり合うことは、今までに自分の中になかったもの、互いの関係の中になかったものを生み出す、創造的な体験である。」との講義をいただきました。

第 2 回は 2 月 12 日（火）～2 月 14 日（木）に開催予定となっています。

2019 年 2 月

第 42 回全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップ（SWS）

第 42 回 SWS を 2 月 2～3 日に大阪市の「セミナーハウス クロス・ウェーブ梅田」で開催し、本会病院の医師 32 人が参加しました。平成 18 年 2 月に〈埼玉〉川口総合病院で第 1 回を開催して以来、これまでの修了者は 1292 人に達しています。

この WS は厚生労働省の認定を受けており、修了者が取得する「臨床研修指導医」の資格は所属施設が変わっても生涯有効となり、内容は臨床研修の目標・方略・評価といった計画立案がメインで、コーチングやリーダーシップなど後輩指導に役立つスキルも習得できます。16 時間以上の講習義務が課せられていますが、本会では診療への影響を最小限に抑えて参加できるよう土・日の 2 日間で実施しています。さらに限られた時間内で研修に集中できるよう、同じ済生会の医師がタスクフォースを務め、伴走しながら参加者を導いていくのも特徴の一つです。

開催責任者の松原了本部理事は修了式で「開会式に比べて参加者の皆さんの目の色が変わった。良い研修医を育て働きがいのある病院をつくることは済生会ブランドの形成にもつながる。今回学んだことを臨床指導に役立ててほしい」と参加者をねぎらいました。参加者は「すごく疲れたが、中身の濃い充実した研修だった。教わった指導法を明日から生かしたい」と話しました。

WS は本会の臨床研修病院が持ち回りで事務局を担当し、例年 2 回実施していますが、今年度は定員を超える参加申し込みがあったため、済生会本部が担当して急きょ 3 回目を開催したもので、山口総合病院と〈愛媛〉松山病院から事務スタッフが応援にかけつけていただきました。

次回は 6 月 22～23 日に同会場で〈福岡〉二日市病院が担当して開催する予定です。

アドバンス・マネジメント研修Ⅲ

次世代の看護管理者の役割を担う中堅看護師を対象とした「アドバンス・マネジメント研修Ⅲ」を本部で 2 回開催し、1 月 21～23 日、2 月 12～14 日合わせて 158 人が参加しました。

プログラムは 2 回とも同様で三部構成で、第一部は炭谷茂理事長から「看護に関する済生会原論―済生会人として知っておいてほしいこと―」と題し、日本と世界の社会情勢と医療・福祉をとりまく環境を解説、済生会の歴史とこれからの「済生会人」としての役割を訴えられました。

第二部は関東学院大学大学院看護学研究科委員長の金井 Pak 雅子教授の講義「より輝ける看護師を目指して」と題して、看護ケアにおけるコミュニケーションの重要性について、「お互いに正しい理解に基づき、共感できるように伝えることが大切。看護師として自分自身のキャリア、今後何を目指したいのか考えてほしい」と話されました。

第三部は高輪心理臨床研究所主宰・岸良範氏による「人間関係とリーダーシップ―互いに育てあう職場を目指して―」と題する講義とグループワークを行いました。

岸氏は「人間関係を豊かにするためには、相手に敬意を表して、話を『聴く』ことが大切。相手には完璧を求めず、出来ないことがあっても認めることで信頼関係が生まれる」と力説されました。

グループワークでは、「豊かに働くために／後輩たちとの関係・上司との関係～その時のコミュニケーションについて考えてみよう」をテーマに討議を行い、参加者から「後輩に自ら声かけをし、どこまで出来ているのかを具体的に説明する」「自分自身の言動をフィードバックしていく」「後輩に対してだけでなく、上司にも聴く・話す姿勢を持ちたい」という意見がありました。

岸氏は最後に、「反対意見は決してマイナスにはならない。組織の新たな価値観、多くの知恵となり、良好な人間関係のある組織へとつながる」とし、「話を聴くポイントは、心を傾けて聴く。相手の気持ちや考えを『教えてもらう』という姿勢で聴くことが大切」と参加者にアドバイスいただきました。

平成 30 年度済生会初期研修医のための合同セミナー

2 月 23 日（土）富山市国際会議場において初期研修医のための合同セミナーを開催しました。当セミナーは、本会の臨床研修指定病院で研修する1年目の研修医全員を対象とし、総会・学会に合わせて開催することで本会の規模を実感し、帰属意識を高めていただくことを目的としています。また、研修責任者（指導医等）にも出席いただき、他院の初期研修医・指導医との交流も深めています。参加者数は 34 病院から初期研修医 236 名、指導医 35 名に上りました。

このセミナーは、企画責任者に中川晋　医師臨床研修専門小委員会委員（中央病院　副院長）、進行役に塩出純二　同委員（岡山済生会総合病院　院長代理）、小西靖彦　同委員（京都大学　臨床研教育門長）、高畠靖志　福井県済生会病院　脳神経外科部長をはじめ、富山病院のスタッフの方々のご協力をいただきました。

セミナーは、本部松原理事の開会挨拶、高木誠　医師臨床研修専門小委員会委員長（中央病院　院長）の講演「済生会の理念と医師臨床研修」の後、近年課題となっている「医師の働き方改革」をテーマに基調講演とグループワークを行いました。

基調講演は、山口直人　済生会保健・医療・福祉総合研究所研究部門長より「済生会医師の働き方の実態と今後の在り方に関する研究」について発表いただきました。グループワークでは、医師の働き方改革に対する各グループの意見をまとめ、発表を行いました。随所にアンサーパッドと呼ばれる集計機器を活用して初期研修医の反応をリアルタイムで示し、盛り上がりを見せました。

また、レジデント企画「当院の研修の魅力はこれだ！」と題して、参加各病院から自院の研修の魅力ある点についてスライド発表とアピールを行い、指導医の投票により表彰を行いました。優勝は今治病院、準優勝に熊本病院、3 位に前橋病院が選ばれ、賞状と記念品が贈られました。

平成 30 年度臨床研修管理担当者研修会

「初期研修医のための合同セミナー」に先立ち、臨床研修管理担当者研修会を開催しました。企画責任者に塩出純二　医師臨床研修専門小委員会委員（岡山済生会総合病院　院長代理）、進行役に泉　学　同委員（宇都宮病院　総合診療科主任診療科長）のご協力をいただいています。

講演は、聖路加国際病院　福井次矢　院長より「医師臨床研修制度はどのように変わるのか」と題して、座長を務めておられる「医師臨床研修制度の到達目標・評価の在り方に関するワーキンググループ」の状況について、済生会陸前高田診療所　伊東紘一　所長からは「済生会陸前高田診療所における初期臨床研修」と題して、本会の臨床研修交流事業で研修医を受け入れている状況について説明いただきました。次に、岡山済生会総合病院　藤岡真一　診療部長及び宇都宮病院　垣内大樹　救急科医員から事例発表に続き、全体で意見交換を行いました。

2019 年 3 月

平成 30 年度 MSW・生活困窮者支援事業研修会

平成 30 年度 MSW・生活困窮者支援事業研修会を 3 月 12～13 日に開催し、本会病院の

MSW を中心に 72 名が参加しました。

炭谷理事長が「済生会における MSW 事業の理論と技法」と題して講演し、「済生会の MSW が日本の MSW をリードしてほしい」と強い期待を述べました。続いて、香川県済生会病院の梶久美子氏、福岡総合病院の今井俊介氏、静岡済生会総合病院の岩﨑圭介氏から、各施設の無料低額診療事業の実践状況が報告されました。

2 日目は、中央共同募金会・渋谷篤男常務理事が「社会的孤立の解消に向けて」と題して講演され、制度外の支援の重要性や、地域福祉の視点を学ぶことができました。

講演後のグループワークでは、「無料低額診療事業と済生会の MSW 実践を通じた社会的孤立の解消に向けて」をテーマに話し合い、1 日目の実践状況報告と併せ岩﨑氏がコーディネーターを務められました。

参加者からは「ニーズの背景に孤立と排除があることを改めて感じた」「日本社会の最終ラインを守る覚悟をもって業務にあたりたい」などの決意が述べられました。

情報交換会では、障害者就労継続支援事業を行う熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」のパウンドケーキや、愛媛・松山ワークステーション「なでしこ」のクッキーなどが用意され、参加者同士、交流を図ることができました。

2019 年 4 月

看護部長・副学校長研修

令和元年度看護部長・副学校長研修が 4 月 18～19 日、本部で開催し、全国から看護部長、副学校長 86 名が参加されました。今年は新任 14 名を迎えての開催となりました。

1 日目は、厚生労働省医政局看護課の島田陽子課長の講義「看護の動向」で、「看護師の特定行為に係る研修制度の概要・現状と推進方策」について、次に今月施行となった「働き方改革関連法」に関して、医師の働き方改革の実現に向けた、医師以外の職種へ「タスク・シフティングの推進」について解説いただきました。この推進は、「質の高い医療を確保するために、チーム医療の推進、医療機関の勤務環境改善、そして医師・看護師等の確保対策である。そこで、実践的な理解力・思考力及び判断力、高度かつ専門的な知識と技能を取得した看護師を計画的に増やしていき、医療機関の勤務環境改善支援につなげていく。この取り組みのさらなる推進のためにも、日本で最大の団体である済生会グループの看護管理者には、多くの看護師が特定行為研修を受講できるよう支援して欲しい」と話されました。さらに、「保健師助産師看護師の国家試験について」「保健師助産師看護師国家試験における Web 公募システムについて」についてのほか、「助産師活用推進事業」について、妊産婦の多様なニーズに対応し、産科医不足・分娩施設減少への対策として産科医療機関において助産師を積極的に活用し、活躍を推進することを目的とした事業であると説明いただいた。

続いて「平成 30 年度全国済生会看護部長会と施設長との連携事業の報告」があり、済生会吹

田病院感染管理認定看護師・藤本憲明氏より、高齢者・福祉施設における感染管理の連携強化を目的とした感染対策の実情調査について、施設との均等な関りができるよう、さらに感染管理を推進していくために企画書を立案したと報告されました。次に同院の専門副看護部長　皮膚・排泄ケア認定看護師・間宮直子氏より高齢者施設におけるスキントラブルのリスク要因とスキンケア対策について、各事例をもとに活動内容を説明されました。活動を通して、多くの課題が明確になり、今後も済生会グループの医療・福祉施設にとどまらず、近隣の施設の多職種と切れ目のない連携を築き上げていきたいと説明がありました。

午後から、茨城大学名誉教授・福島学院大学教授・高輪心理臨床研究所主宰の岸良範氏の講義「人間関係とリーダーシップ　メンタルヘルス・パワハラと『対話力』について一豊かにはたらくためにその2―」とグループワークが行われ、「パワーハラスメント防止法」に関し、パワハラの問題については「『長』を担う立場の人は自分自身を守るために、またスタッフを、さらに病院を守るためにはたえず頭の中にいれておかなければならないこと」、また、労働者のメンタルヘルスの「指針」について、管理者は業務遂行に伴う疲労や、心理的負担が過度に蓄積して、心身の健康を損なわないように注意する義務「安全配慮義務」が求められると説明された。最後に人間関係を豊かにするためには、「自分と同じように他者も『様々な事情を持つ存在』という考えがわかり合う関係のひとつの契機になる。人間に対する深い理解が必要であり、人を尊敬・リスペクトすることから管理は始まる。その実践は、とにかく相手の話（時には言い訳）を聴くことが第一である。」と力説されました。

２日目は、中京大学法科大学院の稲葉一人教授の講義「看護管理と臨床倫理　基礎と実践+認知症の意思決定支援のガイドラインを受けて」が行われました。医療倫理の4原則と4分割法（症例検討シート）について、この4分割法を活用すると、職種や職場によって倫理の問題の見え方の違いを理解することができ、看護管理者は臨床倫理の視点を生かし、患者家族対応をしていくことが必要である、と解説されました。続いて、「人生の最終段階の医療ケアの決定のプロセスガイドライン」についての解説、最後に、平成30年度　厚生労働省の老人保健健康増進等事業として、「認知症の人の意思決定支援　ガイドライン研修―認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン―」について説明があり、稲葉氏の監修のもと作成した研修用 DVD を上映し、活用方法を解説いただきました。

2019 年 6 月

訪問看護ステーション管理者研修

令和元年度訪問看護ステーション管理者研修を 5 月 23～24 日に本部で開催しました。今年度新設された 1 事業所を含め、50 人（うち 10 人が新任）が参加されました。

1 日目は、炭谷茂理事長の基調講演が行われ、「訪問看護師はまさに「地域包括ケアの推進」の一役を担っている重要な存在である。済生会の訪問看護師が患者・利用者満足度の向上と、「住民に信頼される済生会」を目指し、内外に済生会の活動を発信して欲しい」と語られた。

続いて、日本訪問看護財団常務理事・佐藤美穂子氏の講義「訪問看護制度をめぐる動向」において全国の訪問看護ステーションの経営状況や人材確保の課題等の現状について解説され、ICT 化等により成果を可視化し、多職種との連携の効率化・タイムリーな情報共有により看護の専門性を発揮して真っ先に選ばれる訪問看護ステーションを目指してほしいと話された。

2 日目は、一般社団法人空と花訪問看護リハビリステーション　日本財団在宅看護センター代表理事・神奈川歯科大学短期大学部看護学科教授　石川徳子氏の講義「訪問看護ステーションの経営戦略について」が行われ、訪問看護師に必須であるフィジカルアセスメント能力、コミュニケーション能力そしてマネージメント能力を育成することの重要性と管理者に求められる役割について示された。

続いて、(株)在宅看護センター横浜代表取締役　山本志乃氏の講義「訪問看護ステーションの運営・経営」において自身の家族の在宅看取りをきっかけに、起業するまでの経緯を説明され、経営者としての管理者の取るべき行動やコミュニケーションの重要性を解説された。

午後は、中央病院・副院長兼看護部長　樋口幸子氏と中津病院看護部長　中西裕子氏が「訪問看護ステーションの連携について」説明いただいた後、グループワークを行いながら、2 人の看護部長と活発な意見交換が行わた。多くのグループから「病院との人事交流をもっと増やし、ステーションの現状を知って欲しい」、「病院の看護管理者に向けて、在宅看護の研修をぜひ取り入れて欲しい」などの意見が出された。

続いて、済生会訪問看護ステーション管理者間の交流を通して、連携・親睦を深める目的で「交流ワーク」を行った。はじめに、新任管理者の自己紹介があり、全体交流会で各施設の状況を紹介。次に 8 グループに分かれて事前に調査した意見や質問についてグループワークを行った。活発な意見交換と情報共有の場となった。

2019 年 7 月

第 43 回全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップ

第 43 回全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップ（通称：SWS）が、6 月 22～23 日に大阪市（クロス・ウェーブ梅田）で開催され、18 病院 28 名の指導医に厚生労働省認定の修了証が授与されました。この研修は厚生労働省が定める指導医講習会の認定を受けており、届け出済みの 16 時間に渡るプログラムを確実に実施する必要があります。第 1 回（平成 18 年）からの修了者は 1,277 名に達しています。

持ち回りによる開催担当病院は二日市病院で、間野正衛院長とチーフタスクフォースの金原秀雄　福井県済生会内科副部長を中心に、6 名のタスクフォースの先生方、二日市病院のスタッフ

をはじめ、次回担当の栗橋病院、次々回担当の今治病院からも協力を得て、総勢 31 名のスタッフによってつつがなく終了することができました。また、今回は日本赤十字社より 4 名がタスクフォースオブザーバーとして参加し、済生会との交流も行われました。

主なテーマは研修医が行う研修プログラムの立案で、目標の設定、研修方法（方略）、コーチング、リーダーシップ、評価といった指導に必要な要素について、KJ 法を活用したグループワーク、ロールプレイやバズセッションといった手法を用いて効果的に進められました。中央病院の高木誠院長、京都大学の小西靖彦教授による講演も盛り込まれています。

受講者の振り返りの中で、目標達成のために具体的な指標が必要で適切な目標設定が非常に重要なことが分かった、リーダーシップやモチベーションの特性について学べた、相手の意思を引き出すことが重要、といった声が多く寄せられ、臨床研修医指導のレベルアップに大きく寄与したワークショップとすることができました。

福祉施設リーダー研修

福祉施設リーダー研修を7月１～２日、本部で開催しました。職種にかかわらず福祉施設のリーダーとなる職員を対象とし、今回が7年目で全国から 23 人が参加しました。

始めに炭谷茂理事長が「済生会の福祉事業～激変する社会の期待に応える～」と題して講演しました。福祉ニーズは増大している。障害者の社会参加が進まない、刑余者の社会復帰が難しい、被差別部落への根強い差別などの古くからの問題に加え、ホームレスの高齢化と長期化、児童虐待の急増と残虐化、独居高齢者の増加等の新しい課題も出現している。背景には家庭の弱体化、地域社会のつながりの脆弱(ぜいじゃく)化があり、済生会の役割の重要性は増している。今こそ、済生会の使命である生活困窮者への援助、地域医療への貢献、総合的な医療・福祉サービスの提供に「攻めの姿勢」で取り組み、「済生会ブランド」を確立したいと語りました。

その後、外部の専門講師が 2 日目の終了時まで担当しました。

働く人の多様性が増している。リーダーを担う者が環境要因を認識し、変化を踏まえて「働き方」「組織と個人の関わり方」を問い直す必要性が高まっている。そのため、リーダーシップが最重要視されている。これらを踏まえ、「自分たちが目指す済生会グループの施設のあり方」「現状における問題点」「職場のコミュニケーションを円滑にするには」についてグループごとにディスカッションし、リーダーシップの必要性を学びました。最後に難しいパズルゲームでリーダーとしての指示の出し方を実践しました。

今年は、11 月７～８日東京▽12 月５～６日岡山と合わせ3回の開催となります。

副看護部長研修

令和元年度副看護部長研修を 7 月 10 日～12 日の 3 日間、本部で開催しました。49 病院から 51 名が参加されました。

1 日目は、炭谷茂理事長が「看護に関する済生会原論～済生会の飛躍的発展を目指して～」と題して基調講演を行いました。

続いて、滋賀県病院副院長兼看護部長・松並睦美氏が「看護部長のマネジメント」と題して、滋賀県病院の中期行動計画の取り組みと成果を事例として、看護管理者は病院経営に参画して組織活動に貢献し成果をあげられるかが重要であると講義しました。

2 日目は、本会理事・岩手医科大学看護学部長・教授・嶋森好子氏による「看護管理者のための医療安全」の講義のほか、株式会社サフィール取締役・河野秀一氏より「経営参画」をテーマに、9 グループに分かれグループワーク形式で講義とワークが行われました。病院の経営や運営について、仮説を立てて戦略を立案する演習や、目標達成や問題解決のために策定した仮説を実行・検証・修正することにより効率的に最適解を導き出す思考方法を解説しました。実際の事例を使って各自で立てた仮説についてグループで話し合い、活発な意見交換の演習となりました。

3 日目は、中京大学法科大学院教授・稲葉一人氏の講義「臨床倫理の基礎　事例検討会　意思決定支援」において、医療倫理の 4 原則と 4 分割法（症例検討シート）についての解説のほか、厚生労働省の「認知症の人の意思決定支援　ガイドライン研修―認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン―」についての説明もありました。 次に、前年度の「副看護部長フォローアップ研修成果発表」が、新潟病院副看護部長・松岡長子氏、和歌山病院副看護部長・河原歩氏、今治病院副看護部長・児島有希子氏の 3 名からあり、続いて、東京都済生会中央病院副院長兼看護部長・樋口幸子氏からフォローアップ研修で企画した副看護部長への支援について講義があり、全日程が終了しました。なお、フォローアップ研修は「成果に繋げる副看護部長の仕事」をテーマに 11 月開催予定としています。

2019 年 8 月

新任看護師長研修

令和元年度新任看護師長研修を 7 月 24 日～26 日に本部で開催した。今年度は 53 病院から 75 名の新任看護師長の皆さんが参加した。1 日目は、炭谷茂理事長の基調講演「看護に関する済生会原論～済生会の飛躍的発展をめざして～」に続いて、常陸大宮済生会病院看護部長・鈴木典子氏による「看護部長のマネジメント～いきいきと看護管理をしよう～」の講義で、常陸大宮済生会病院において鈴木氏が経験した「忘れられない患者さんとの場面」から学ばれた「私の看護観」を解説し、すばらしい臨床家としての自分に誇りをもって、いきいきと看護管理をしてほしい、と話された。2 日目は、東京都看護協会教育部部長補佐・栗原良子氏により「人材育成」の講義が行われ、看護管理者が学んで実践し、結果を見て反省して学ぶことの繰り返しで身につけるマネジメント能力等について講演いただいた。

また、加藤看護師社労士事務所・加藤明子氏により「労働関係法規の理解と看護管理の実務」と題して、「育児・介護関連」、「働き方改革」の関係法規、「ハラスメント」について、具体的なケーススタディを交えながら解説いただいた。

３ 日目は、東京外国語大学・非常勤講師の市瀬博基氏による講義「ポジティブ・マネジメント―自ら考え、行動し、助け合う組織をつくる―」が行われ、ストレス・マネジメントとレジリエンス（回復プロセスからの教訓を得る）についての説明や「認知行動療法」の手法の一つである瞑想・呼吸法の体験、演習等、協働と対話から生まれる職場の学びと成長について有意義な学習となった。

2019 年 9 月

令和元年度アドバンス・マネジメント研修Ⅳ

次世代の看護管理者としての役割を担う中堅看護師を対象とした「令和元年度アドバンス・マネジメント研修Ⅳ」を 8 月 28～30 日、本部で開催し、68 施設から 80 人が参加しました。

１ 日目は、炭谷茂理事長の基調講演「看護に関する済生会原論～済生会の飛躍的発展を目指して～」に続き、加藤看護師社労士事務所の加藤明子氏から 4 月 1 日に施行された改正労働基準法について事例を基に労働時間の上限規制や医療従事者の勤務環境改善の取り組みなどを解説していただきました。

２ 日目午前中は、関東学院大学大学院看護学研究科委員長の金井 Pak 雅子教授が「より輝ける看護師を目指して」と題し、中堅看護師は自己のキャリア形成を考えること、コミュニケーションスキルを磨き自身で得た知識・技術を伝えることが大切とお話ししていただきました。午後と３日目は高輪心理臨床研究所主宰の岸良範氏が「人間関係とリーダーシップ―互いに育てあう職場を目指して―」と題し講義と演習をいただき、パワハラにならない上手な〝叱り方〟と傾聴・対話力といったコミュニケーションスキルを解説されました。

参加者からは「相手との意見の違いを認めて、良い意見を素直に取り入れるという視点が広がった」などの意見があり、大変有意義な研修会となりました。

令和元年度薬剤部（科・局）長研修会

令和元年度薬剤部（科・局）長研修会を 9 月 6 日、本部で開催し、72 病院から 73 人が参加されました。

林紀次事業部次長より本部連絡事項として法人の厳しい経営状況等についての説明の後、植松和子特別参与が済生会共同治験の状況に関して報告しました。

その後、国際医療福祉大学薬学部特任教授の土屋文人氏から「10 年後・20 年後に求められる薬剤師像と業務手順書改訂の留意点―薬機法・薬剤師法改正及び 0402 通知と AI が薬剤師業務に及ぼす影響―」と題しての講演がありました。最後に炭谷茂理事長が「令和元年度の済生会の経営の基本方向 ～経営の抜本的強化に向けて～」と題した基調説明を行いました。

2019 年 10 月

新任看護師長研修

令和元年度新任看護師長研修を 7 月 24 日～26 日に本部で開催しました。今年度は 53 病院から 75 名の新任看護師長の皆さんが参加しました。

1 日目は、炭谷茂理事長の基調講演「看護に関する済生会原論～済生会の飛躍的発展をめざして～」に続いて、常陸大宮済生会病院看護部長・鈴木典子氏が「看護部長のマネジメント～いきいきと看護管理をしよう～」と題して講義。常陸大宮済生会病院において鈴木氏が経験された「忘れられない患者さんとの場面」から学んだ「私の看護観」を解説し、すばらしい臨床家としての自分に誇りをもって、いきいきと看護管理をしてほしいと話しました。

2 日目は、東京都看護協会教育部部長補佐・栗原良子氏が「人材育成」をテーマにし、看護管理者が学んで実践し、結果を見て反省して学ぶことの繰り返しで身につけるマネジメント能力等についてのご講演。また、加藤看護師社労士事務所・加藤明子氏が「労働関係法規の理解と看護管理の実務」と題して、「育児・介護関連」、「働き方改革」の関係法規、「ハラスメント」について、具体的なケーススタディを交えながら解説されました。

3 日目は、東京外国語大学・非常勤講師の市瀬博基氏による講義「ポジティブ・マネジメント―自ら考え、行動し、助け合う組織をつくる―」が行われ、ストレス・マネジメントとレジリエンス（回復プロセスからの教訓を得る）や、「認知行動療法」の手法の一つである瞑想・呼吸法の体験、演習等、協働と対話から生まれる職場の学びと成長について説明され有意義な学習となりました。

看護補助者の活用と支援についての看護管理者研修

「看護補助者の活用と支援についての看護管理者研修」を9月 25 日、本部で開催しました。急性期看護補助体制加算及び看護補助者加算に対応する研修で今年が4年目。副看護部長や看護師長 65 人が参加し、全員が修了しました。

講師は東神奈川リハビリテーション病院の藤原佐和子看護部長、アドバイザーは龍ケ崎済生会病院の氏家みどり看護部長が務めました。

藤原看護部長は、全国済生会看護部長会と本部看護室が作成した「看護補助者育成のための業務・教育指針」をもとづき、看護職と看護補助者の業務範囲・業務分担の在り方、労務管理、

雇用形態について事例を交えて解説しました。

グループワークでは、「明日からできること」をテーマに看護者と補助者が協働するために必要なことを議論。「看護チームの一員として認める」「積極的に声を掛けてコミュニケーションを図る」「自分達が変わり、積極的に情報を共有する」など具体策が挙がりました。

氏家氏は「看護補助者をきちんと名前で呼び、感謝の気持ちを表すだけでなく日ごろの挨拶も大切」「業務マニュアル、就業規則を確認して、見直すところがあれば、すぐに改善してほしい。看護チームの一員として守っていくことも看護管理者の重要な役割」と訴えました。

令和元年度 新人看護職員教育担当者研修

令和元年度新人看護職員教育担当者研修を 10 月 9 日～11 日、本部で開催し、60 名（57 施設）が参加しました。各施設で新人看護職員研修を効果的に行うため計画の立案・実施・評価、実地指導者との関係調整や支援の在り方について再考し、実施することを目的としています。

1 日目は炭谷茂理事長の基調講演に続き、東京工科大学名誉教授・齊藤茂子氏による「新人看護職員の成長支援」の講義が行われ、厚生労働省「新人看護職員研修ガイドライン」の効果的な活用方法の解説に加え、具体的な指導方法について実体験をもとに解説していただきました。

2 日目は、杏林大学保健学部看護学科准教授・金子多喜子氏による「看護師のメンタルヘルス」の講義に続き、齊藤茂子氏による「『こうすれば新人の成長を支援出来る』提案集をPBLで作ってみよう！」の講義が行われ、PBL（プロジェクト基盤型学習、または問題基盤型学習）の演習を行いました。

3 日目は各チームで生み出した「知の成果」のプレゼンテーションを行い終了となりました。「知の成果」は「こうすれば新人の成長を支援できる研修提案集」として冊子にまとめ、受講施設の看護部長及び受講生に送付を予定しています。

2019 年 11 月

令和元年度 認知症支援ナース育成研修

済生会独自の「認知症支援ナース育成研修」が 10 月 24 日～25 日に本部で開催された。63 名（48 施設）が参加した。平成 28 年度の診療報酬改定で新設された「認知症ケア加算 2」の算定条件に満たすには、認知症患者のアセスメントや看護方法等に係る「適切な研修（9 時間以上）」を受けた看護師を対象とし、対象病棟に 2 名以上配置することが条件となっている。本研修は「適切な研修」に該当する。受講者全員が算定条件に満たす研修時間をクリアし、修了証書が交付された。

1 日目は、兵庫県病院認知症看護認定看護師・谷川典子氏による「認知症ケア加算」、「急性期病院での認知症看護の視点」の講義に続き、横浜市東部病院副院長脳神経センター長・後藤淳氏による「せん妄について」、「認知症の原因疾患と病態・治療」、「認知症の行動・心理症状について」の講義が行われた。具体的な事例をもとに、せん妄・認知症の病態について分かりやすい解説があった。2 日目の午前中は、兵庫県病院認知症看護認定看護師・谷川典子氏と中央病院認知症看護認定看護師・浅水香理氏による「入院中の認知症患者に対する看護に必要なアセスメントと援助技術」の講義が行われた。様々な事例をもとに看護に必要なアセスメントや看護ケアの視点を解説した。

続いて、横浜市東部病院老人看護専門看護師・丸山理恵氏による「認知症に特有な倫理課題と意思決定支援」の講義と事例検討会を行った。「倫理的な気付きとジレンマ」を感じることが重

要で、医療チームの中で話し合うと自分自身の価値観に気づくことができる。そして、認知症患者にとって最善のケアにつながっていく、と解説した。

次に、認知症患者への「意思決定支援」における看護師の役割と「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」について解説があった。ACPとは、将来の意思決定能力の低下に備えて、個人が病状に応じた今後の医療について理解し、振り返り、大切な人や医療者と話し合うことで、医療者・ケアチーム全体で話し合うプロセスが重要である、という講義が行われた。

2 日目の午後は、富山病院認知症看護認定看護師・橋本佳子氏と金沢病院認知症看護認定看護師・ 松田美紀氏による「認知症患者とのコミュニケーション方法」、「療養環境の調整方法」についての講義が行われた。認知症患者のコミュニケーション方法では、認知症患者が元の居場所に戻ることができるように、チームで話し合い、ケアを計画し、お互いをカバーしながら多職種とスムーズな連携につなげることが重要で、看護管理者は認知症患者のケアを行っているスタッフのストレスを理解し、サポートを行ってほしい、という講義であった。

続いて、認知症患者への看護やコミュニケーション方法についてグループワークを行い、事例をもとにグループで話し合った看護師の対応の演習を行った。平成 28 年度に新設された本研修で修了した延べ人数は 764 名となった。

福祉施設リーダー研修

11 月 7～8 日に福祉施設リーダー研修が本部で開催された。職種にかかわらず福祉施設のリーダーとなる職員が対象。年 3 回開催の 2 回目で、全国から 21 人が参加した。

はじめに炭谷茂理事長が「済生会の福祉事業～激変する社会の期待に応えるために～」と題して講演。「福祉ニーズは増大しているが、障害者の社会参加は、なかなか進まない。刑余者の社会復帰の難しさ、被差別部落への根強い差別も残っている。さらに近年は、児童虐待の急増や、ホームレスの高齢化など、新しい課題も出現しており、このような問題こそ、済生会が対応すべきである。そのためには、徹底した「攻めの姿勢」で取り組む必要があり、『済生会ブランド』の確固たる地位を固めたい」と訴えた。

その後は、外部の専門講師が 2 日目の終了時まで担当。「自分たちが目指す済生会グループの施設のあり方」「現状における問題点」「職場のコミュニケーションを円滑にするには」について、グループディスカッションを実施。リーダーシップの必要性を学んだ。

最後に難しいパズルゲームを通して、リーダーに求められる役割を実践した。

今年度の最終回、第 3 回は 12 月 5～6 日に岡山で開催される。

2019 年 12 月

第 4 回済生会地域包括ケア連携士（連携士）養成研修会

11 月 19～22 日の 4 日間、第 4 回済生会地域包括ケア連携士（連携士）養成研修会が開かれた。

連携士は済生会が構想する地域包括ケアを中核となって進めていく役割を担っており、研修は高齢、障害、児童、生活困窮者など各分野における連携や施設における地域貢献、さらには、ケアマネジメントやICF(国際生活機能分類)、職種間連携など多岐にわたるハードな内容となっている。4 回目の今回は、病院のMSWや看護師、福祉施設の相談員、訪問看護師など、様々な連携業務に携わる 74 人が参加した。

受講者からは、「ソーシャルインクルージョンをなぜ済生会が行うのかがよく理解できた」「多彩な講師陣による様々な分野の話が聞けて本当によかった」「実際の支援事例なども含めた話でとても理解が深まった」「今後の自身の活動に、夢が広がる感覚と責任感を抱くことができた」といった意見が寄せられた。全国で地域共生社会に向けた取り組みが進められる中、本研修は済生会内外から多くの注目を集めている。今回で計 339 人の連携士が誕生した。

副看護部長フォローアップ研修

副看護部長フォローアップ研修が 11 月 27～29 日に本部で開かれ、48 人が参加した。7 月に実施した副看護部長研修の受講者が、その役割と看護管理を実践に結びつけることが目的。

参加者は 9 グループに分かれ、「成果に繋(つな)げる副看護部長の仕事」をテーマに議論。樋口幸子・中央病院副院長兼看護部長や町屋晴美・本部看護室長らが参加者をサポートした。最終日、各グループはパワーポイントを用いて討議した内容を発表した。発表内容に共感する意見も多く聞かれた。優秀な企画を提案したグループへの表彰では、全 9 グループが受賞した。アドバイザーからは、「グループワークでの気付きが出発点。さすが副看護部長だと感心した」「副看護部長の役割は多い。多忙の中、様々な選択を強いられ、悩むこともあるが優先順位をつけて行動してほしい」「今回学んだ言葉一つ一つの意味を大切にして、済生会というネットワークを活用して、成長してほしい」とエールを送った。

受講後のアンケートでは、「今後に生かせる内容で、自身の課題が明確になった」「改めて副看護部長の仕事はすばらしい仕事だと再認識できた」という意見があった。

2020 年 1 月

MSW・生活困窮者支援事業研修会

令和元年度MSW・生活困窮者支援事業研修会が 1 月 9～10 日にMSW70 人の参加を得て開催した。

炭谷理事長が「済生会におけるMSW事業の理論と方法」と題して講演し、「済生会のMSWが日本のMSWをリードしてほしい」と強い期待を述べた。続いて、済生会川俣病院の櫻井公大氏、済生会富田林病院の吉松利通氏、済生会松阪総合病院の奥村裕司氏、山本泰広氏が、各施設の無料低額診療事業、生活困窮者支援事業の実践状況を報告した。

2 日目は、神奈川県立保健福祉大学の山崎美貴子名誉教授・顧問が「地域を基盤としたソーシャルワークの動向と特質」について講演。ソーシャルワーカーが担うべき役割や、エコマップの活用、社会資源の分類について学んだ。講演後のグループワークでは、各グループでエコマップを作成し利用者のための社会資源について話し合った。1 日目の実践状況報告と併せ吉松氏がコーディネーターを務めた。情報交換会では、障害者就労継続支援事業を行う熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」のパウンドケーキや、松山ワークステーション「なでしこ」のクッキーなどが用意され、参加者同士、交流を図った。

参加者からは「MSWの業務が済生会の理念と密接につながっていることを感じた」「MSWとして地域での生活をどのように支援するのか、理論やツールを学ぶことが出来た」などの感想があがった。

2020 年 2 月

アドバンス・マネジメント研修Ⅲ

中堅看護師（全国済生会看護職教育体系クリニカルラダー・レベルⅢ以上）を対象としたアドバンス・マネジメント研修Ⅲが 1 月 22～24 日、本部で開かれ、73 施設から 80 人が参加した。

初日、炭谷茂理事長は「看護に関する済生会原論～済生会の飛躍的発展を目指して～」と題し基調説明。「優れた人材は、組織の理念の旗のもとに集まる。厳しい経営状況の中、支部・施設・本部が一体となって攻めの姿勢を持ってこの危機を乗り切りたい」と訴えた。

2 日目は、関東学院大学大学院看護学研究科の金井 Pak 雅子教授が「より輝ける看護師を目指して」と題し講義。組織における問題解決に関し、効果的なコミュニケーションスキルについて事例をもとに解説した。将来のリーダーを見据え、「変革推進者として組織全体を俯瞰(ふかん)してみてほしい」と語った。

高輪心理臨床研究所主宰の岸良範氏は「人間関係とリーダーシップ―互いに育てあう職場

を目指して―」と題し、講義とグループワークを 3 日間通して行なった。人間関係の構築には相手に敬意を払って話を「聴く」ことが重要と解説。グループワークでは、「スタッフと話しやすい環境（時間と場所）をマネジメントする」「リーダーとしてスタッフと上司との橋渡しできるような環境作りに努めたい」といった意見があった。岸氏は「相反する意見でも、相手を認め、尊重しあえる関係を作っていくことが大切。反対意見でも組織の新たな価値観となり、多くの『知恵』となる」と総括した。

臨床研修管理担当者研修

2 月 8 日に朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで「臨床研修管理担当者研修会」が行なわれ、指導医 37 人が参加した。

進行は企画責任者で済生会医師臨床研修専門小委員会・塩出純二委員（岡山済生会総合病院院長代理）と千葉義郎同委員（水戸済生会総合病院臨床研修センター長）により行われた。

研修会は 2 つの講演会で構成され、第一部の講演では、富田林病院・宮崎俊一院長が「これからの専門医制度について」と題し、同氏が副会長を務める日本内科学会専門医制度審議会での議論等を踏まえ、専門医制度のこれまでの経緯と今後の展開について解説した。

第二部の講演では、京都大学大学院医学研究科医学教育・国際化推進センター臨床教育部門長の小西靖彦教授が「これからの医学教育」と題し講演。医学部卒業前から卒業後までの教育やその継続性、アウトカム基盤型教育の重要性などを学ぶことができた。

それぞれの講演後は、意見交換が行われ、今後の臨床研修に関する理解を深めるとともに、済生会における医師の育成に寄与する研修会となった。

初期研修医合同セミナー

2 月 8 日に朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで済生会初期研修医のための合同セミナーが開催され、全国から初期研修医 247 人、研修責任者等 37 人の計 284 人が出席した。当セミナーは、1 年目の研修医に済生会の規模を実感させることにより、帰属意識を高めることが目的。この済生会医師臨床研修専門小委員会は泉学委員（宇都宮病院総合診療科主任診療科長）と田中和豊委員（福岡総合病院臨床教育部部長）が企画責任者となり学会・総会に合わせて開催している。研修責任者（指導医）も出席し初期研修医・指導医との交流も深めている。

本部・松原了理事の挨拶に続き、同小委員会・登谷大修委員長（福井病院院長）が「済生会の理念と医師臨床研修」と題して講演。その後、近年課題となっている「医師の働き方改革」をテーマに基調講演とグループワークを行なった。

基調講演は、京都大学大学院医学研

究科医学教育・国際化推進センター臨床教育部門長の小西靖彦教授が「医師の働き方と医学教育」について講演。グループワークでは、医師の働き方改革に対して議論が交わされた。昨年に続き、アンサーパッドと呼ばれる集計機器が研修医全員に配られ、事前に設定された質問への回答者数がリアルタイムに分かることから、積極的にセミナーに参加していた。

つづいて、レジデント企画「当院の初期臨床研修について」と題して、研修医（代表者）が自院の研修の魅力についてスライドを交えてアピールした。研修責任者の投票の結果、優勝―中央病院、準優勝―山口総合病院、3 位―福井病院に賞状と記念品が贈られた。

2020 年 9 月

新任看護師長研修

令和2年度新任看護師長研修が9月15日～17日本部にて開催された。今年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、本部での集合研修を中止し、全日程をビデオ会議ツール「Zoom」を活用したオンラインにて開催された。済生会本部では初めての試みである。40 病院及び特別養護老人ホームの新任看護師長 51 名が参加した。

講義「労働法と看護管理（加藤看護師社労士事務所・加藤明子氏）」、基調講演「看護に関する済生会原論～新型コロナによる転換期での済生会の進む方向～（炭谷茂理事長）」、講義「人材育成（東京都看護協会教育部部長補佐・栗原良子氏）」、講義「看護部長のマネジメント～いきいきと看護管理をしよう～（常陸大宮済生会病院看護部長・鈴木典子氏）」、講義「ポジティブ・マネジメント―自ら考え、行動し、助け合う組織をつくる―（東京外国語大学・市瀬博基氏）」と内容の濃い講義が進められた。

初のオンライン研修に向けて、事前のインターネット環境整備、Zoom 操作確認、研修会場の確保など、各施設の情報システム管理者及び関係者の方のご協力のもと、3日間無事に開催することができた。また、オンラインでのグループワークも初めて行ったが、スムーズに話し合いができたグループが多かった。途中通信状態が不安定になり、パソコンの不具合が生じた施設もあったが、受講生の多くが徐々に Zoom の操作にも慣れ、集中して受講していた。対面研修とは違った受講生の真剣な眼差しや緊張感が、画面から感じられたとても貴重な研修となった。今後の課題もあるが、看護管理者として、この研修で体験したことを、各施設でもぜひ活用していただきたい。

2020 年 11 月

アドバンス・マネジメント研修Ⅳ（対象：中堅看護師及び副看護師長の任にある者）

令和 2 年度アドバンス・マネジメント研修Ⅳが 11 月 11 日（水）～11 月 13 日（金）本部にて開催された。今年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、本部での集合研修を中止し、全日程をビデオ会議ツール「Zoom」を活用したオンラインにて開催された。56 施設（訪問看護ステーション 1 施設含む）から 56 名が参加した。

この研修は次世代の看護管理者として役割を担う中堅看護師の役割を明らかにし、いきい

きと輝いて看護ができることを目的としている。

1 日目は炭谷茂理事長による基調講演「看護に関する済生会原論～新型コロナによる転換期での済生会の進む方向～」が行われた。新型コロナウイルス感染拡大により、世界経済・社会・文化・人々の暮らしに多大な影響を及ぼしている。このような状況こそ、済生会が一体となり、徹底した対策を実施し、攻めの姿勢を持ってこの危機を乗り切っていくこと。長い歴史を有し、世界最大の医療と福祉サービスを提供する恩賜財団として、内外に済生会の活動を発信し、ブランド力の向上を図り、済生会の発展に努力していきたい、という講義であった。

続いて、社会保険労務士法人あい事務所・福島紀夫氏による「医療従事者の管理者がおさえるべき院内活性化の労務管理」の講義が行われた。研修開催前に労務管理について悩んでいる事や質問事項のアンケートを実施した。多くの受講生から回答があり、残業、有給取得、パワハラ等について多くの悩みや質問が寄せられた。福島氏は事前アンケートの質問項目に合わせながら、対策方法について解説された。

2 日目の午前中は公益社団法人東京都看護協会教育部部長補佐・栗原良子氏による「人材育成」の講義が行われた。病院の組織構造の解説やマズローの欲求と自身の職場内の立ち位置と役割について、具体的に分かりやすく解説された。この講義では、4 人 1 組になりグループワークも行った。初めてのオンライン上でのグループディスカッションは、対面とは違う緊張感があり、なかなか話し出せないグループもあったが少しずつ慣れてきた様子も見受けられた。栗原氏よりグループワークの発表の総括として、「看護部長は良い組織を作りたいから、皆さんはこの研修の受講生に選ばれた。期待されているから選ばれた。中堅看護師になると、様々な業務があり、責任も重くなり、辛くなることが多い。しかし、こんなに大変な仕事でもずっとやり続けているということは、看護が好きだっていうこと。こんなに大変でも、この素晴らしい看護師という職業を選んだ自分自身を褒めて欲しい」という温かいメッセージに受講生の表情がとても穏やかになったのが、画面上から分かりとても印象深かった。

午後からは、高輪心理臨床研究所主宰・岸良範氏による「人間関係とリーダーシップ－互いに育てあう職場を目指して－豊かに働くために～メンタルヘルス（パワハラ対策を含む）・人間関係～」の講義と演習を行った。今年度は主にコロナ禍における職場の不安、ストレス、人間関係（コミュニケーション）、パワーハラスメントについて、事例をもとに重点的に解説された。

本研修におけるオンライン研修は 2 回目であった。事前のインターネット環境整備、Zoom 操作確認、研修会場の確保等、各施設の情報システム管理者及び関係者のご協力のもと、3 日間無事に開催することができ心から感謝申し上げたい。途中通信状態が不安定になり、パソコンの不具合が生じた施設もあったが、受講生の多くが徐々に Zoom 操作にも慣れ、集中して受講していた。

本研修はグループディスカッションが多く組み込まれていたが、慣れてくるとスムーズにディスカッションや発表をすることができた。

対面研修のような交流は出来なったが、オンライン上であっても、徐々に慣れてくると距離感を感じさせない交流の場となった。今後の課題もあるが、この研修で体験したことを、各施設でぜひ活用していただきたい。

2020 年 12 月

薬剤部（科・局）長研修会

令和 2 年度薬剤部（科・局）長研修会を 12 月 4 日、本部で開催しました。本部会場には 10 病院が参集し、53 病院が Zoom によるオンラインでの参加となりました。

炭谷理事長の基調講演「済生会経営の基本的方向～新型コロナによる転換期での済生会の進む方向～」では、コロナ下において済生会が行うべき 3 つの基本方針や、困難を乗り越えるために必要な経営基盤の強化などについての方針が示されました。松原理事の本部連絡事項では、本会施設の経営状況や、施設の統廃合に備えた再建・統廃合基金（仮称）の検討状況などについての説明がありました。植松特別参与からは済生会共同治験に関する報告がありました。

講演では、一般社団法人 医薬品安全使用調査研究機構 設立準備室長 土屋文人氏より「改正薬剤師法・薬機法が求める薬剤師像－改正法への対応と留意点－」と題して詳しく解説いただきました。会場参加者だけでなく Zoom 参加者との質疑応答も行われ、活発な意見交換を行うことができました。

2021 年 2 月

令和 2 年度 アドバンス・マネジメント研修Ⅲ

中堅看護師（全国済生会看護職教育体系クリニカルラダー・レベルⅢ～Ⅳ以上）を対象としたアドバンス・マネジメント研修Ⅲが 1 月 20 日～22 日、Zoom によるオンラインで開催された。 70 施設から 70 名が参加した。

炭谷茂理事長による基調講演「看護に関する済生会原論～新型コロナによる転換期での済生会の進む方向～」、済生会中央病院副院長兼看護部長・樋口幸子氏による講義「～より輝ける看護師を目指して～」に続き、高輪心理臨床研究所主宰・岸良範氏から「人間関係とリーダーシップ―互いに育てあう職場を目指して―」と題して講義と演習、グループワークが行われた。「創造的な人間関係」構築のためのコミュニケーション、リーダーシップのあり方について大変有意義な研修となった。

2021 年 3 月

MSW・生活困窮者支援事業研修会

2月26日、令和2年度MSW・生活困窮者支援事業研修会を MSW68 名の参加を得て開催しました。Zoom を活用した完全オンラインでの開催とし、本部事務局に 18 台の PC を配置してブレイクアウトセッション機能を活用したグループワークも実施しました。

炭谷理事長より「済生会におけるMSW事業の理論と方法」、本部事務局広報室の山内敦室長より「済生会の歴史と使命から考える生活困窮者支援」それぞれ講演があり、炭谷理事長は「済

生会のMSWが日本のMSWをリードしてほしい」と強い期待を述べられました。続いて中津病院の冨士川浩子氏から無料低額診療事業等の取り組み事例を報告いただきました。

午後のグループワークでは、伊藤直行氏（山形）・神田義則氏（新潟）・岩﨑圭介氏（静岡）・南本宜子氏（京都）・平田正彦氏（呉）・松尾美穂氏（日田）の 6 名をファシリテーターとし、コロナの影響やその中で済生会に期待される支援等について検討しました。

参加者からは「済生会の MSW であることに誇りをもって仕事をしたい」「済生会の MSW として院内にとどまらず地域でも広く活躍できる存在になりたい」といった意見のほか、Zoom での研修については「初めてで不安だったが事前の丁寧な説明があってよかった」「子育て中で出張ができないためオンラインで研修に参加できてよかった」等の感想が寄せられました。情報交換会は、グループごとにブレイクアウトルームを自由に使用する時間を設けることで交流を図っていただきました。

2021 年 4 月

看護部長・副学校長研修

令和 3 年度看護部長・副学校長研修を 4 月 22 日本部にてオンラインで開催した。全国から看護部長（新任看護部長 13 名）、副学校長 86 名が参加された。

厚生労働省医政局看護課長・島田陽子氏の講義「看護の動向」では、新型コロナウイルス感染症に伴う看護職員の確保の取り組み、特定行為に係る研修制度の概要・現状、医療専門職支援人材確保事業について解説いただいた。

次に、昨年度の「コロナ禍の取り組みと展望」をテーマに、済生会の 2 病院と看護専門学校から事例発表を行っていただきました。中津病院院長補佐・今西氏から「コロナ禍において安全で安心して臨地実習を実施するための基本方針－作成過程から見えたこと　－」、横浜市東部病院看護部長・渡邊氏から昨年 2 月の大型豪華客船「ダイヤモンド・プリンセス号」での感染対応から現在までの経緯について、大阪済生会野江看護専門学校副学校長・入山氏から「コロナ禍の 2020 年度を振り返って」それぞれ発表があった。コロナ禍における医療現場での対応や実習において困難を乗り越えてスタッフが一丸となった取り組みが共有できた。

また、株式会社オーセンティックス代表取締役・高田誠氏から「病院看護部のトップ管理者として考える人材育成と組織力」と題して人材育成の問題と対策についての講義と、「人材育成」や「どのように組織を存続し、発展させるか」をテーマに毎回違うメンバー構成のディスカッションを数回行った。自己紹介をしながら意見交換を行い、参加者同士の交流機会とすることができた。